

■西3丁目通りの羊蹄山の眺望への配慮の考え方

駅施設（視点場）からの羊蹄山への眺望に配慮した建築物の高さや配置とする。

■視点場

都市施設の屋上展望デッキ（高さ10m+目線の高さ1.5m） ※想定

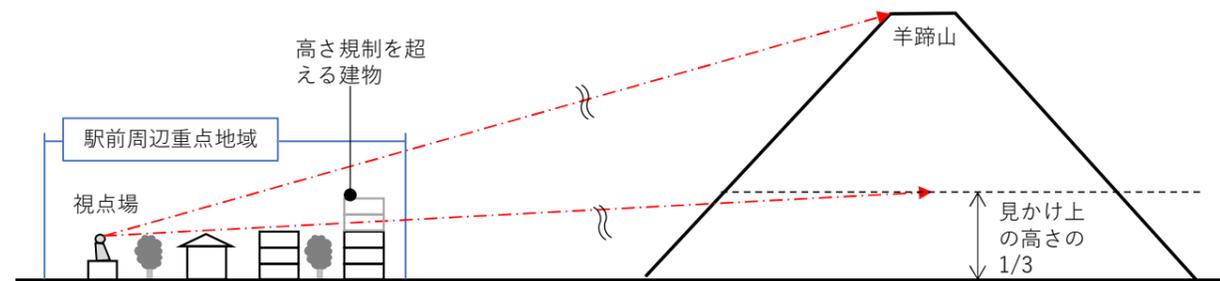
■視対象

羊蹄山

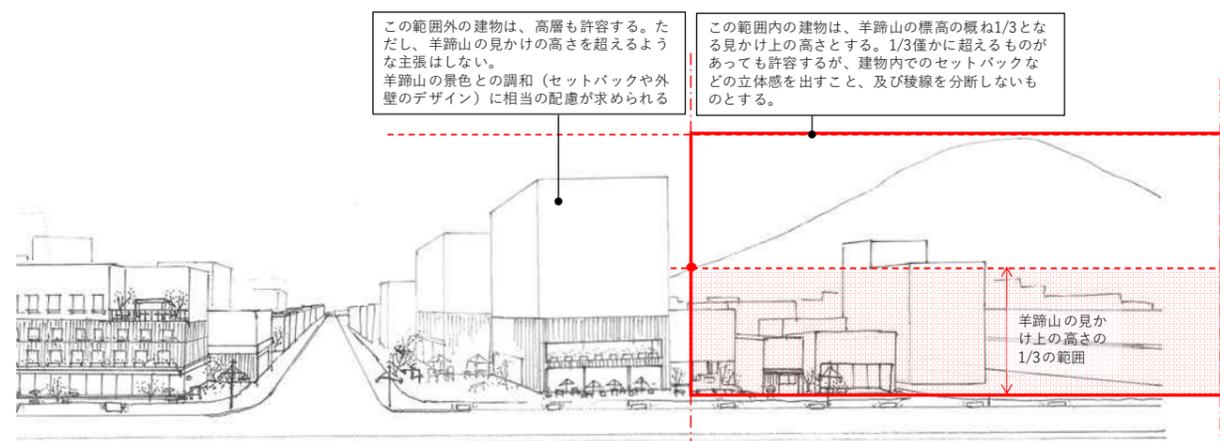
■範囲と高さや配置の考え方

視点場から見た羊蹄山の存在感が伝わる範囲とする。

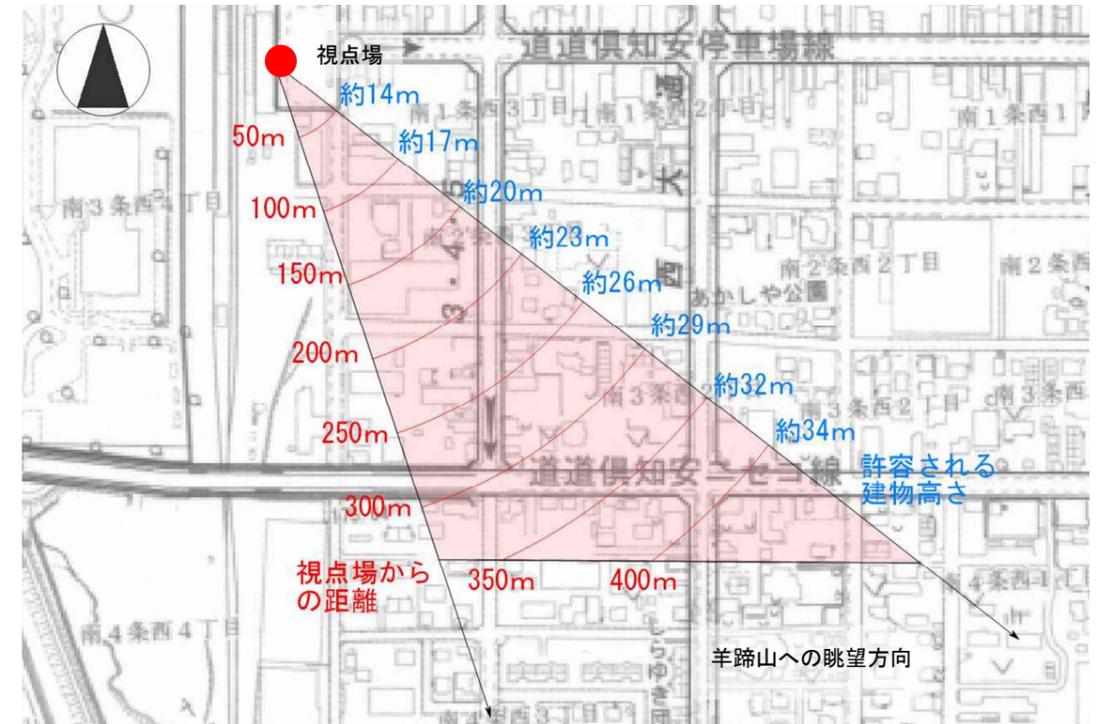
視点場から見た建物の見かけ上の高さを、可能な限り羊蹄山の見かけ上の高さの概ね1/3以内におさめる。建物の高さが1/3の高さを超える場合は最小限に留め、かつ、建物内のセットバックなどの立体感を出すこと、また、視点場から羊蹄山を眺望した際に稜線を建物が分断しないようにする。また、各建物の高さやセットバック位置に、あえて統一感を持たせないことで、立体感を生み、背景の羊蹄山の景色に調和を図る。



羊蹄山への眺望に対する範囲や高さの捉え方 イメージ図（断面図）

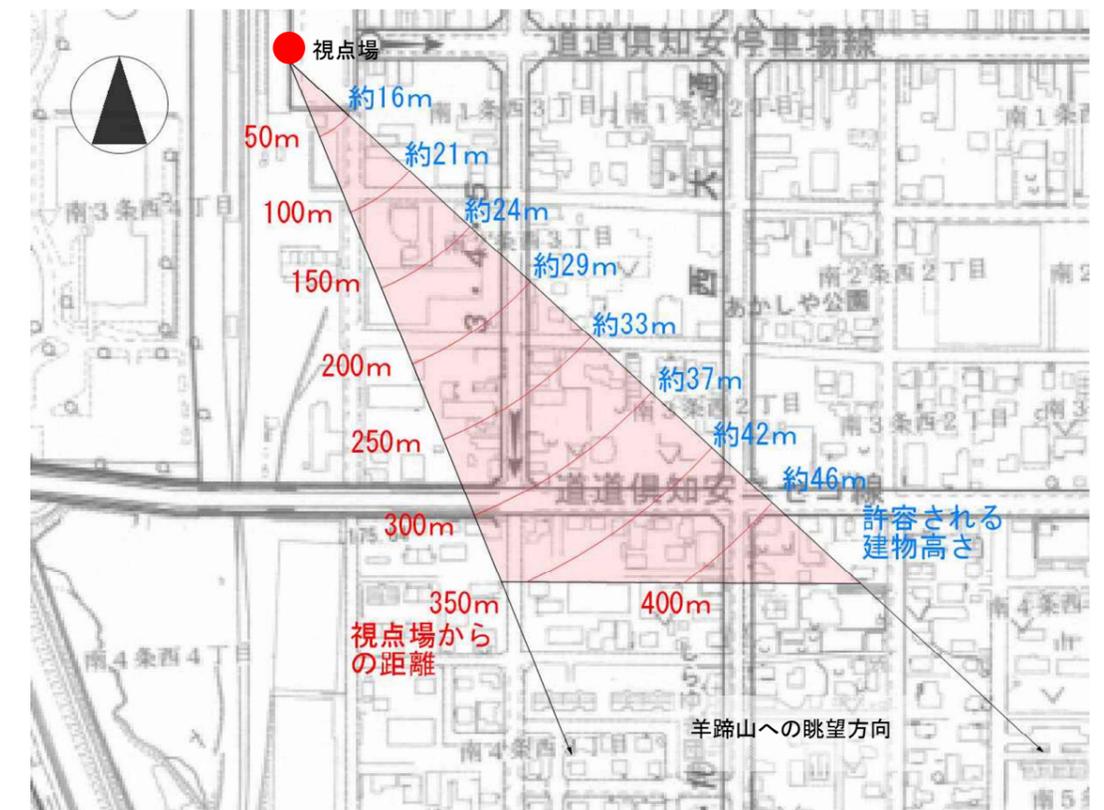


羊蹄山への眺望に対する範囲や高さの捉え方 イメージ図



羊蹄山への眺望に配慮する範囲と高さ（羊蹄山の高さの1/3）

<参考>



羊蹄山への眺望に配慮する範囲と高さ（羊蹄山の高さの1/2）

